**日本ヴェーダーンタ協会**

25 May 2014

スワーミー・スヒターナンダ

ラーマクリシュナ・マト・　アンド・ミッション

事務総長

親愛なるみなさん、

私は2014年3月3日、インドのムンバイにある病院で腰椎骨折の顕微鏡手術を受けなければなりませんでした。 傷の治療中のことです。岡倉覚三によって書かれた『 Ideals of the East: The Spirit of Japanese Art （東洋の理想：日本芸術の精神）』」という本を読む機会を得ました。「アジアは一つ。」という大変インパクトのある文からその本は始まります。少し読み進むと、「日本とはアジア文明の博物館となっている。いや博物館以上のものである。なんとなればこの民族のふしぎな天性は、この民族をして、古いものを失うことなしに新しいものを歓迎する生ける不二元論(ｱﾄﾞｳﾞｧｲﾃｨｽﾞﾑ)の精神をもって、過去の諸思想のすべての面に意を留めさせているからである。神道家はいまなおその仏教以前の先祖崇拝の儀式を固守している。そして仏家自身もまた、自然の順序のままに順次この国土を豊かならしめるものとなった、宗教的発展のさまざまの宗派のおのおのに固執しているのである。」　岡倉は続けます。「歴史の黎明は、かれら大和民族を、戦いに臨んで精悍、平和の諸芸においては温雅、太陽の子孫の伝説とインドの神話にはぐくまれ、　詩歌を愛し、女性に対する大いなる尊敬の念をいだく一個の緊密に団結した民族としてあらわし見せている。」（『東洋の思想』岡倉天心　講談社　昭61年発行より引用）

日本ヴェーダーンタ協会は『ラーマクリシュナ僧団の三位一体と理想と活動』という拙著を2001年に出版していますが、その中でラーマクリシュナ・マトとミッションの理想と活動を説明しています。理想は抽象的ですが、目次に示されたように実践的です。救済活動、医療サービス、女性と青年の活動、社会的弱者への支援、霊的文化的な活動、海外のセンターなどです。スワーミー・ヴィヴェーカーナンダは、1893年に日本を訪問しましたが、顔があまりにお釈迦様に似ていると驚かれました。彼は日本人の愛国心、勤勉、団結力、清潔、美的感覚という特性に大きな感銘を受けました。1902年にカルカッタの日本領事、岡倉、ジョセフィン・マクラウドやスワーミー・ヴィヴェーカーナンダの友人たちが彼を日本に招待しようと試みましたが、体調問題で実現されませんでした。しかしその後、ラーマクリシュナの直弟子スワーミー・トリグナティターナンダとスワーミー・アベーダーナンダが来日され、ラビンドラナート・タゴール、ラシュベハーリー・ボースと続きます。1903年以降はスバーシュ・チャンドラ・ボースが来日しています。その後には、スワーミー・ブラフマーナンダの弟子でラーマクリシュナ・オーダーの7代目の総裁　スワーミー・シャンカラーナンダ、スワーミー・ヴィヴェーカーナンダの弟子、スワーミー・サダーナンダも来日しています。1931年には、ロマン・ロランの　スワーミーの伝記が日本語に翻訳されました。スワーミー・ランガナーターナンダジーの励ましと、木村日紀教授、V.S.ラオ氏の主導により1958年に日本ヴェーダーンタ協会が設立されました。スワーミー・メーダーサナンダの指導のもとで、積極的な活動を行っているこの協会の行事で、本日私がお話できることは幸いです。

**スワーミー・ヴィヴェーカーナンダは生誕150周年を過ぎた今の世にふさわしいのでしょうか？**

スワーミー・ヴィヴェーカーナンダがこの世を去り111年以上にもなりますが、彼の人生やメッセージは今日でもすばらしい意味を持っています。この事実について著名な歴史家でインド学者のA.L.バッシャムはこう書いています。「時が経ち、彼の没後に起きた途方もない想定外の出来事が示すのは、彼（ヴィヴェーカーナンダ）は何百年にも渡り、現代世界の　主要な規範の形成者として記憶　されるだろうという事である。」1906年のマクラウド宛ての手紙でシスターニヴェディタはこう

書いています。「ごらんなさい。私たちのようなスワーミーの理解者やスワーミーを知る者がこの世を去った後、スワーミーの教えが語られない　暗い沈黙が長い間訪れるでしょう。あたかもスワーミーが忘れられたかのようですが、150年、200年後　に突然スワーミーの教えが世界を変えたと理解されるでしょう。」

今日私たちは国際的な文明社会に暮らしています。進化した情報とコミュニケーション技術、経済の国際化、その他の要素も含め世界中の人々はかつてないほど親密に繋がっています。世界中で今、人権の重要さ、社会的公正、男女平等などについて認識が高まり、宗教の調和と原理主義的信仰の危険性を理解する事の重要性が増しています。もう一つ関心を集めている傾向として、精神的、霊的生活への興味の高まりで、特にそれは世界中の若者たちの間でみられます。精神的、宗教的なアプローチは、人生の問題に直面した時や、有意義な人生を達成するために非常に役に立つという認識が高まりつつあります。世界中で、知的な人々が教会や寺院、モスクに束縛されない宗教を模索しています。印刷物や電気メディアを通じて、この流行は世界的な精神運動となり、教育、健康、医薬、経済や政治にまで及び、何百万という人々が今や瞑想、ヨーガ、禅などの　精神的訓練を実践しています。早くも1897年には、スワーミー・ヴィヴェーカーナンダはこう述べています。

「政治や社会学においても、20年前の国内問題でさえ国内だけでは解決できない。幅広い光を当て、国際的な視野をもって取り組む事によってのみ解決される。国際的機関、国際的な協力、国際法が今、切望されている。」最近ユネスコは、スワーミーの生誕150周年に関する記念の行事を企画しました。イリーナ・ボコヴァ・ユネスコ事務局長は式典の講演で次のように述べました。「今日考えるテーマとして　ヴィヴェーカーナンダの普遍的なメッセージ以上に何があるでしょうか？今世界は、社会の　相互の繋がりが進んでいますが、分裂も進んでいます。」忘れてはなりません。スワーミーは自身の存在の核心に忠実でしたが、母国への愛が人類全体の中の自身のあり方を妨げることはありませんでした。クリストファー・イシャーウッドは、「ヴィヴェーカーナンダの　愛国心は、狭い意味のそれではなく、超越した愛国心とでも言うような、国際的に昇華したそれである。」と、述べています。

**スワーミー・ヴィヴェーカーナンダのさまざまな分野での貢献**

**調和：**スワーミーのメッセージの基調は調和です。古代と近代、東洋と西洋の調和、宗教の調和、宗教と科学の調和をもたらそうとしたのです。

**人間社会への懸念：**スワーミーは、啓示を受けた数少ない先見者で、人類のはるか未来を見据えていました。人類の幸福を深く憂慮され、ラーマクリシュナ・ミッションを設立し偉大な構想で寄与しました。1993年、この事実は当時のユネスコ事務局長フェデリコ・メイヤーが公認しています。スワーミー・ヴィヴェーカーナンダの宗教会議出席100周年を記念するユネスコの特別展示会の開催において、メイヤーは、1897年に策定されたラーマクリシュナ・ミッションの構想と、そのおよそ50年後のユネスコの構想の類似性に驚かされた、と語っています。

**宗教：** 人類の次に彼が懸念することは宗教です。宗教へ寛大な姿勢が彼の言葉から伺えます。「私はイスラム教のモスクに行きましょう。キリスト教の教会で十字架の前で跪きましょう。仏教寺で仏陀に従い帰依します。森の中でヒンドゥ教徒達と座り全人類の心を照らす光を見出すために瞑想します。これらの宗教だけではなく、この先遭遇する全てに対して私は心を開いています。」

**奉仕：**心を動かすスワーミーの地球的視野の広さについて、ロンドン市長ボリス・ジョンソンは「彼の献身的な社会の最貧層や弱者への奉仕は、無視無欲である時がベストである事を思い起こさせてくれる。」と記述しています。

**平和：**世界平和を脅かす原因は内的外的の両方があります。我々が知り得る限り、ヴィヴェーカーナンダが師シュリ・ラーマクリシュナから学び、絶えず西洋で説いた宗教の調和のメッセージが、宗教の不調和問題を解決する唯一の策なのです。この見解の支持には、高名な英国の歴史家アーノルド・トインビーの言葉の引用が最善でしょう。「人類の歴史上最も危険な現在、　それを救うことができる唯一の方法はインド的な方法しかありません。アショカ王やマハートマ・ガンディーの非暴力の原理とシュリ・ラーマクリシュナの宗教の調和への証がそれです。私たちは人類が一つの家族と成り得る姿勢と精神を持ち合わせています。

ここで、ヴィヴェーカーナンダが世界の知識人たちに与えた影響に注目していただきたいと思います。

**１．アニー・バーダック**は2012年3月29日、米国でニューヨークタイムズよりも流通している日刊紙ウォールストリートジャーナルに書いています。「J.D.サリンジャー、レオ・トルストイ、ニコラ・テスラ、サラ・バーンハートの共通点は何か。世界的なヨーガ運動の巧みな伝道師スワーミー・ヴィヴェーカーナンダの影響を受けた事です。」

**2. ニコラ・テスラ**は 、ヴィヴェーカーナンダからヴェーダーンタのプラーナ、アーカシュ、カルパについて聞きて魅了され、それを現代科学が受入れるべき唯一の理論と位置づけています。

**３．　レオ・トルストイ**はヴィヴェーカーナンダのラージャヨーガの読後に「昨日ヴィヴェーカーナンダを一日中読んだ。」「この時代にこれ以上の無私で霊的な瞑想ができる人物がいるとは信じられない。」と語りました。

**４. ウィリアム・ジェームス教授**は、スワーミーについてこう語っています。「本当に感嘆に値する説得力のある方です。人類の誇りです。」

**５．　ロックフェラー**スワーミーは、シカゴでジョン・D・ロックフェラーに多大な影響を与えました。彼に「累積した金は世界でよい働きをするために神があなたに与えた手段にすぎない。」と言ったのです。ロックフェラーの最初の巨額の　寄付はスワーミーに対する不本意なものでしたが、後にロックフェラー財団を設立し、何十億ドルが公共の福祉に役立てられています。

**6. マックス・ミューラー**スワーミーは1896年、ミューラー教授の家を訪ねました。会合の後、大雨と嵐にも関わらず教授は駅までスワーミーを見送りました。「悪天候なのになぜですか。」とスワーミーが尋ねると、　　　教授は「シュリ・ラーマクリシュナの最高の門弟様に会える幸運はそう何度もありませんから。」と答えました。

**７．ジャムシェドジー・タタ** スワーミーは1893年、横浜からカナダへの航海中にタタと出会い、彼を祝福してこう語りました。「西洋の進んだ科学や技術と　インドの修行、人間主義が融合したらどんなに素晴らしい事しょう。」タタはその後、今は世界的に有名になった科学研究所をインドに設立しました。

これらすべての人々はスワーミーと個人的に面識がありました。では、彼が後の時代にいかに偉大な人物として受けとめられていたのかをみていきましょう。

**8.　スカルノ博士**　初代インドネシア大統領スカルノは『ヴィヴェーカーナンダの声』という本の序文に記述しています。「スワーミー・ヴィヴェーカーナンダ！なんというお方だ！多大な閃きを私の人生に与えてくれた。強さ、神の奉仕者となり、祖国、貧者、人類に奉仕することを。彼はこう語った。我々は十分に涙を流した。泣くのをやめ自分達の足で立ち、人となれ！と。」

**9. ウー・タント** 前国連事務局長（1962-1971）は、「スワーミー・ヴィヴェーカーナンダはインドの最も偉大な霊的な大使です。言わせていただきますとインド史上、アジア史上最高の大使でしょう。」と述べました。

**10.　スバーシュ・チャンドラ・ボース** 「ヴィヴェーカーナンダを知ったのは15歳未満でした。以来心の大改革が起きました。言うまでもなく生きている限り私は絶対にラーマクリシュナ、ヴィヴェーカーナンダに忠実で献身的です。」

 **11.　バラク・オバマ米国大統領**は2010年11月8日インド国会で演説しました。「有名なスワーミー・ヴィヴェーカーナンダの１世紀以上も前の訪問が、私の故郷シカゴの 信仰を豊かにしてくれました。スワーミーは、神聖さ、純粋さ、　慈愛は世界のどこかの教会が独占　すべきものではありません。どんな体系もが高貴な人格をもつ男女を生み出してきました、と述べています。」

**12. 安倍晋三・日本の首相**は、2007年8月22日インド国会で次のように演説しました。「二つの流れは、別々の水源からやってきてひとつの海で混ざり合う。インドが生んだ偉大な宗教指導者、スワーミー・ヴィヴェーカーナンダの言葉をもって本日のスピーチを始めることができますのは、私にとってこのうえない喜びであります。ヴィヴェーカーナンダは、岡倉天心なる人物―この人は近代日本の先覚にして、一種のルネサンス人です―が、知己を結んだ人でありました。岡倉は彼に導かれ、その忠実な弟子で有名な女性社会改革家、シスター・ニヴェーディタとも親交を持ったことが知られています。再びヴィヴェーカーナンダの引用をお許し願いたく存じます。1893年、シカゴでお話された際、結びの一部として非常に意味深い意見を述べられています。争わずに手を差し伸べなさい。破壊ではなく融合を。紛争ではなく、調和と平和を。」

**１３．あるロシアの詩人**がスワーミー・ヴィヴェーカーナンダについて詩を作りました。彼のことをとても正しく表現しています。

彼は抜き身の刀のようだ。

彼の思いはまるで鉄の刃のように響き渡る。

ぴかぴか、きらきら、ぱちぱち

鳴り響く、そしてまた鳴り響く！